



2026年5月15日

各 位

上場会社名 株式会社ノザワ
代表者名 代表取締役社長 野澤 俊也
(コード番号 5237)
問合せ先 理事 管理本部長 荒木 健介
(TEL 078-333-4111)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について決議いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた基本方針

当社は、企業価値の持続的な向上を図るため、株主資本コストを上回る資本収益性（ROE）の達成を重要な経営目標として位置付けるとともに、市場からの評価指標である株価純資産倍率目標（PBR）1倍以上の達成を目指すことを別紙のとおり決議いたしました。

今後は、これらの目標を意識した経営管理を徹底し、資本効率の向上及び市場評価の改善に継続的に取り組んでまいります。

2. 中期経営計画「NOZAWA NEXT3」の策定

上記方針及び目標の実現に向け、当社が目指すべき姿として「ノザワの使命（Nozawa's Mission）」を掲げるとともに、資本収益性の向上および市場評価の改善を図るための具体的施策を取りまとめた中期経営計画「NOZAWA NEXT3」を、別紙のとおり策定いたしました。

当社は、株主をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様のご期待に応えるべく、本計画を通じて、資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を推進し、ノザワの使命を果たしてまいります（Fulfilling Nozawa's Mission）。

以 上

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

—やすらぎと安心の創造—



証券コード: 5237

目次

1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
 - 1-1. 過去5年間の業績推移による現状把握
 - 1-2. ROEとPBRの課題
 - 1-3. 2029年3月期目標
 - 1-4. ステークホルダーへの対応
2. 目標達成するための取組み
 - 2-1. 目指す姿ノザワの使命(Nozawa's Mission)「やすらぎと安心の創造」
 - 2-2. 中期経営計画「NOZAWA NEXT 3」
 - 2-3. 「志」KOKOROZASHI-Vision
 - 2-4. 「実」MINORI-Profit
 - 2-5. 「礎」ISHIZUE-Base
3. 設備投資計画
 - 3-1. 設備投資計画

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

1. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応
 - 1-1. 過去5年間の業績推移による現状把握
 - 1-2. ROEとPBRの課題
 - 1-3. 2029年3月期目標
 - 1-4. ステークホルダーへの対応

1-1. 過去5年間の業績推移による現状把握

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応を検討するにあたり現状把握するために用いた主な指標等は以下のとおりです。

過去5年間の業績推移

項目	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
売上高	20,546百万円	20,975百万円	23,074百万円	21,954百万円	22,312百万円
経常利益	1,987百万円	1,147百万円	1,938百万円	1,838百万円	2,166百万円
経常利益率	9.7%	5.5%	8.4%	8.4%	9.7%
PBR (株価純資産倍率)	0.44倍	0.43倍	0.56倍	0.48倍	0.67倍
ROE (自己資本利益率)	9.6%	2.6%	4.6%	5.7%	2.8%
株主資本コスト※	5.2%	4.9%	5.7%	6.9%	8.1%
株価	716円	689円	957円	845円	1,228円
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,713百万円	486百万円	874百万円	1,156百万円	605百万円
配当性向	26.6%	82.0%	45.9%	40.0%	83.4%
DOE (株主資本配当率)	3.1%	2.7%	2.7%	2.9%	3.2%
自己資本	18,348百万円	18,481百万円	19,809百万円	20,665百万円	21,930百万円

※株主資本コストはCAPM (資本試算価格モデル) にて推計

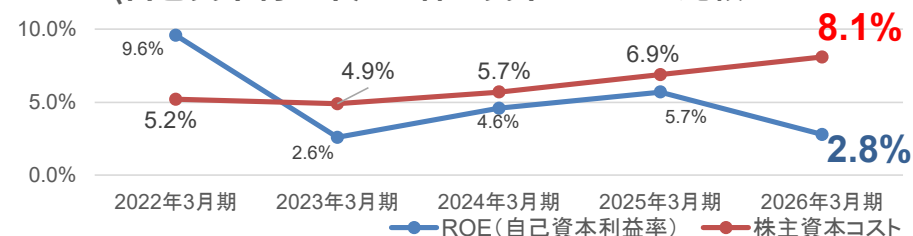
1-2. ROEとPBRの課題

2026年3月期における株主資本コストとROE（自己資本利益率）の比較、PBR（株価純資産倍率）の評価から資本収益性の改善が必要であると認識しています。

課題:資本収益性が低い

- ROE：資本収益性が資本コストを下回る**
 2022年3月期は株主資本コスト5.2%に対してROEが9.6%と上回っていましたが、2026年3月期では株主資本コスト8.1%に対しROEが2.8%と下回り、持続的な成長と資本収益性の向上に取り組むことが重要であると認識しています。
- PBR：1.0倍を下回っている(0.67倍)**
 当社株価は依然として割安な水準にあり、PBRの改善に向けROEの向上が必要であると認識しています。

ROE(自己資本利益率)と株主資本コストの比較



PBR(株価純資産倍率)の推移



1-3. 2029年3月期目標

PBRを改善させるには、ROEの向上が不可欠であることから、当社中期経営計画に基づく各施策によりROEを向上させ、2029年3月期8%を達成し、PBR1倍を目指します。

ROE (目標水準) **8.0%**

PBR (目標値) **1.0倍**

項目	2026年3月期	増減	2029年3月期目標
売上高 (百万円)	22,312	+ 2,688	25,000
経常利益 (百万円)	2,166	+ 834	3,000
経常利益率	9.7%	+2.3ポイント	12.0%
親会社株主に帰属する当期純利益(百万円)	605	+ 1,495	2,100
自己資本(百万円)	21,930	+ 4,070	26,000
P B R	0.67倍	+ 0.33倍	1.0倍
R O E	2.8%	+ 5.2ポイント	8.0%

1-4. ステークホルダーへの対応

市場評価改善に向けた取り組み



1. 安定配当

連結配当性向30%またはDOE（連結株主資本配当率）3.0%のいずれか高い方を目途とし、業績に見合った株主への安定的な配当の維持及び適正な利益還元に努めています。



2. 株主優待制度の導入

株主の皆様のご多大なるご支援に深く感謝するとともに、当社株式の認知度向上及び魅力向上を図り、より多くの皆様に中長期的に当社株式を保有して頂くことを目的として、株主優待制度を導入しました。



3. IR・SRへの取り組み

企業価値向上と経営安定化に繋がる投資家対応として、適時適切な透明性のある情報開示を行います。

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

2. 目標達成するための取組み

2-1. 目指す姿ノザワの使命(Nozawa's Mission) 「やすらぎと安心の創造」

2-2. 中期経営計画「NOZAWA NEXT 3」

2-3. 「志」 KOKOROZASHI-Vision

2-4. 「実」 MINORI-Profit

2-5. 「礎」 ISHIZUE-Base

2-1. 目指す姿

ノザワの使命 (Nozawa's Mission) 「やすらぎと安心の創造」の実現

当社のコーポレートメッセージである「やすらぎと安心の創造」の実現とは、具体的には「災害から守る」「快適な住環境の提供」「環境保全」「人手不足解消」です。この4項目をノザワの使命 (Nozawa's Mission) と捉え、ノザワの使命を果たす (Fulfilling Nozawa's Mission) ことで、継続的な企業価値向上を図り、2029年3月期目標ROE8%・PBR1倍を実現してまいります。

目指す姿「ノザワの使命 (Nozawa's Mission)」

1. 災害から守る

自然災害時の建築物の倒壊・破損を防ぎ、人々の生命と財産を守る

2. 快適な住環境の提供

変化し続けるどんな環境でも問題なく日常生活を快適に暮らせる住環境を実現する

3. 環境保全

自然災害の要因となる環境負荷の低減を図り、2050年カーボンニュートラルに追従しCO2排出量ゼロを実現する

4. 人手不足解消

労働人口の減少による人材不足による影響を軽減する商品開発、販売、組織基盤強化を行う

2-2. 中期経営計画「NOZAWA NEXT3」

「ノザワの使命 (Nozawa's Mission)」を果たすための3つの計画「志」「実」「礎」を策定、これらをまとめて中期経営計画「NOZAWA NEXT3」とします

1. 「志」 KOKOROZASHI-Vision 目指す姿に向けた計画

「災害から守る」「快適な住環境の提供」「環境保全」「人手不足解消」の4項目の実現に向けて、製品機能・性能・デザイン・仕上げ・工法等のあらゆる項目で新たな商品を開発し、技術を進化・深化・新化させる。

2. 「実」 MINORI-Profit 既存事業の収益拡大に向けた計画

既存事業の収益拡大に向け、アスロック・住宅向け商品の販売数量増、高付加価値品比率向上、環境商品・ナチュラルレ・土木商品・現場省力化工法の拡販、現場塗装事業参入により売上高を向上させる。

NNPS改善活動による生産効率の向上、DX化、省人化・自動化、設備生産性やエネルギー効率の向上、輸送効率の改善、自社・他社廃材の有効活用によりコストダウンを推進し利益を確保する。

製造方法と品質管理の改善や検査の自動化により製品品質を高め、納期短縮と厳守を徹底するとともに、施工パトロールや工法・資材の最適化によって施工品質を向上させ顧客満足度向上を図る。

3. 「礎」 ISHIZUE-Base 組織基盤強化のための計画

目指す姿の実現と持続的利益創出に向け、DX・AI活用による業務効率化や社内インフラ整備を進めるとともに、人材の確保・育成と制度高度化を図り、情報開示の充実を通じて企業価値向上と経営安定化を実現する。

2-3. 「志」KOKOROZASHI-Vision

「志」 KOKOROZASHI-Visionの概要です。

項目	「志」 KOKOROZASHI-Visionの概要
災害から守る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 甚大化する巨大地震と繰り返す余震にも耐える ・ 頻発するゲリラ豪雨にも浸水しない ・ 台風の大型化による猛烈な暴風にも破損しない
快適な住環境の提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ デザインの多様化・仕上バリエーションの増加 ・ 大気汚染物質、砂塵・鉱物微粒子の抑制 ・ 断熱・遮熱性能向上 ・ 防音性能向上
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ CO₂の吸収、排出量削減 ・ ヒートアイランドの解消と対策
人手不足解消	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建築現場の省人化、工期短縮 ・ 少人数による企業運営

2-3. 「志」KOKOROZASHI-Vision

「志」 KOKOROZASHI-Visionの概要を実現する新商品です

項目	「志」 KOKOROZASHI-Visionで実現する「未来に向けた商品」
<p>災害から守る</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・耐震性能向上パネル ・高水密性能パネル ・耐久性能向上パネル
<p>快適な住環境の提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・高意匠外壁デザインパネル、高意匠内壁素地ボード ・空調負荷低減に貢献するパネル ・室内環境の静音化に貢献するパネル
<p>環境保全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・環境配慮と発電機能を両立する次世代太陽電池パネル ・緑化条例に応える次世代緑化パネル ・建物周辺の外気温低減に貢献する日射反射機能パネル ・自然災害の要因となるCO₂排出を削減する脱セメントパネル ・CO₂削減に貢献するCO₂固定化押出成形セメント板 ・資源循環ニーズに応える廃棄材の原材料利用商品 ・再生可能エネルギーを活用した商品
<p>人手不足解消</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・留付方法簡略化 ・現場施工簡略化 ・新たな工場プレ加工 ・施工現場の作業負荷低減

2-3. 「志」KOKOROZASHI-Vision

「志」KOKOROZASHI-Visionで創出する新商品を実現するには、技術革新が不可欠です。当社製品は、素材を作る技術と製法によりつくられ、その当社製品と工法を組み合わせることで初めて商品となります。これらの技術を進化・深化させ既存商品を発展させるとともに、技術を新化させ未来の新商品を創出します。

技 術		技術革新（進化・深化）	
製造技術 素材×製法=製品	押出技術	<ul style="list-style-type: none"> ・製造時のCO₂排出量低減 ・新たなデザイン ・軽量化 ・薄型化 	<ul style="list-style-type: none"> ・長尺化 ・耐久性向上
	抄造技術	<ul style="list-style-type: none"> ・新たなデザイン ・長尺化 ・耐久性向上 	
製品 × 工法 = 商品 (組み合わせ技術)		<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光パネル一体化 ・耐震性能向上 ・水密性能向上 ・超高層専用仕様 	<ul style="list-style-type: none"> ・プレハブ化 ・工場プレ加工 ・施工現場省力化 ・土木インフラの高寿命化
技 術		技術革新（新化）	
次世代に向けた新技術		<ul style="list-style-type: none"> ・脱セメント製造技術 ・社内廃材、社外廃棄物利用によるリサイクル技術 	<ul style="list-style-type: none"> ・CO₂固定化製造技術

これらを開発するために、人材・設備に投資し、新商品売上高比率30%以上を目標としています。

2-4. 「実」MINORI-Profit

「実」MINORI-Profitの施策です

項目	「実」MINORI-Profit施策	
<p style="text-align: center;">売上の向上</p>	<p>アスロックの販売数量増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・DX需要の拡大を背景に急成長するデータセンターへの商品展開 ・他部材からのコストダウン提案による採用拡大 <p>付加価値品比率向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場塗装品採用拡大 ・デザインパネル商品採用拡大 <p>環境商品の拡販</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緑化条例に適合したグリーンウォール採用拡大 ・外壁太陽光一体型パネルの発売 <p>ナチュラルレの拡販</p> <ul style="list-style-type: none"> ・豊富なバリエーションで市場拡大(素地、塗装) ・海洋資源の有効活用による環境配慮型商品の採用拡大 	<p>住宅向け商品の販売数量増</p> <ul style="list-style-type: none"> ・顧客要求性能の仕様化 ・内装仕上げ材、間仕切り品の付加価値向上による差別化 ・直接需要先の新規拡大 <p>人手不足解消</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場プレ加工の推進による施工現場作業省力化(工場ガスケット張り) ・省力化工法採用推進による建築工期短縮(LS工法) <p>現場塗装事業参入(新事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・工場塗装では対応できないオーダーメイド感のある塗装対応による新規顧客獲得

2-4. 「実」MINORI-Profit

項目	「実」MINORI-Profit施策
コストダウン	<ul style="list-style-type: none"> • NNPS（ニュー・プロダクション・システム）改善活動による生産効率の向上 • DX化（工場内各工程をアプリにより一元管理） • 省人化、自動化（AI画像処理技術による検査の自動化、運搬作業の自動化）の推進 • 設備生産性の向上 • 電気・ガス使用効率アップ • 生産工場から施工現場への商品輸送効率の向上 • 自社廃材の原材料利用 • 他社廃材の原材料利用
品質向上	<ul style="list-style-type: none"> • 製造方法改善、品質管理による製品品質向上 • 製品検査自動化の推進 • 納期短縮と希望納期厳守 • 施工パトロール、工法及び工法関連資材の改善、工法ごとの適性仕様化による施工品質向上

2-5. 「礎」ISHIZUE-Base

「礎」ISHIZUE-Baseの施策です

項目	「礎」ISHIZUE-Base施策
社内インフラの整備	<p>IT環境の整備、AI活用、DX推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ノーソースコード運用による事務効率化 ・チャットボット導入による問い合わせ対応業務の効率化 ・基幹システム（人事給与）データの有効活用による業務効率化 ・営業支援システム導入による業務効率化と営業力強化 <p>必要な人材の採用・定着と働く意欲・能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営目標達成に必要な人数、スキルを持った人材の採用 ・自律型プロフェッショナル人材の育成 ・外国人技能実習生積極採用 ・社員の能力を最大限に引き出す、公平かつ透明性の高い人事制度導入
ステークホルダー対応	<p>企業価値向上と経営安定化に繋がる投資家対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適時、適切な透明性のある情報開示

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

3. 設備投資計画

3-1. 設備投資計画

3-1. 設備投資計画

中期経営計画「NOZAWA NEXT 3」の各施策を実行するための2027年3月期から3年間の投資額

内 容	金 額
技術開発・商品開発	12億円
原料リサイクルシステム	10億円
廃熱回収システム	4億円
A I 画像認識技術	3億円
自動化・A I ・D X 投資	3億円
設備能力増強	8億円
設備維持更新	20億円
合 計	60億円

補足説明

当社のコーポレートメッセージ「やすらぎと安心の創造」およびノザワの使命（Nozawa's Mission）を掲げた経緯について掲載しております。

あわせて、当社への理解を深めていただくため、会社概要や事業展開についてご紹介し、それらが創業以来大切にしてきた「いつも新しいことを」とどのようにつながっているかをご説明します。

補足説明

1. 会社概要

1-1. 会社概要

1-2. これまでの当社の経営方針

1-3. 当社が事業展開している3つの市場

1-4. 3つの市場で提供している商品

1-5. 3つの市場での社会ニーズと商品の特長

1-6. 3つの市場で活躍する商品の基礎となる固有の技術

1-7. 固有の技術を生み出す創業来の遺伝子「いつも新しいことを」

2. これからも「いつも新しいことを」追求していきます

2-1. これからも「いつも新しいことを」追求していきます

1-1. 会社概要

株式会社ノザワ（NOZAWA CORPORATION）は、兵庫県神戸市に本社を置く、1897年創業の建材メーカーです。日本で初めてスレート板国産化、押出成形セメント板「アスロック」量産化に成功したパイオニアであり、主にオフィスビルや商業複合施設の外壁・間仕切壁などの分野で高いシェアを持つ東証スタンダード上場企業です。

創 業	1897年（明治30年）8月17日 ※2026年で創業129年を迎えます	
代 表 者	代表取締役社長 野澤 俊也	
上 場	東証 スタンダード市場	
資 本 金	24億4,900万円	
事 業 内 容	押出成形セメント板、繊維強化セメント板、耐火被覆材の製造、販売、施工 他	
従 業 員 数	332名(連結)	2026年3月31日現在
連結売上高	223億円	2026年3月期

1-2. これまでの当社の経営方針

これまでの当社の経営方針はコーポレートメッセージ「やすらぎと安心の創造」に基づき事業展開をしてまいりました。

コーポレートメッセージ ～やすらぎと安心の創造～

日本は、地震、台風など災害が多い。自然の猛威に対し人間は無力に近いが、当社は知恵と努力で人々の明るい笑顔・楽しい思い出を守る。



1. 災害時に人々の生活と安全を守る

不燃、耐火、耐震、高耐久、高強度の建築土木資材を提供することによって、災害時に人々の生活と安全を守る。



2. 日常生活において快適な住環境を提供する

デザイン性が高く、多くの仕上げバリエーションを持つ商品を揃えることで、日常生活において快適な住環境を提供する。

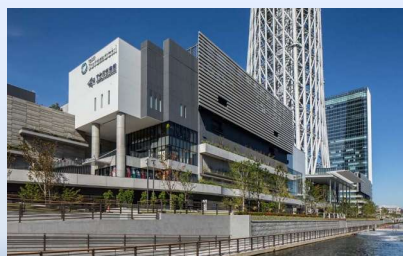


3. 環境保全により、自然災害の要因となる環境負荷の低減を図る

太陽光発電、緑化、遮熱、高断熱等の環境型商品を開発することにより環境負荷の低減を図る。

1-3. 当社が事業展開している3つの市場

当社が事業展開している市場は「一般建築・住宅・土木」の3つの市場です。



1. 一般建築市場

商業複合施設、店舗、交通施設、教育文化施設、宿泊施設、生産研究施設、医療健康施設、官公庁庁舎、事務所ビルなど



2. 住宅市場

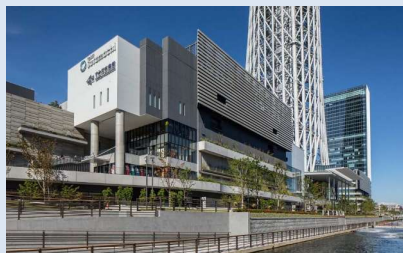
戸建住宅、集合住宅など



3. 土木市場

道路、鉄道、トンネルなど

1-4. 3つの市場で提供している商品



1. 一般建築市場

- ・ 押出成形セメント板「アスロック」
- ・ 超高層建築向け押出成形セメント板「アルカス」
- ・ 繊維強化セメント板「スレート・ボード」「ナチュラルレ」
- ・ 耐火被覆等工事



2. 住宅市場

- ・ 住宅用軽量外壁材
- ・ 住宅用高遮音床材
- ・ アスロック外廊下・階段材
- ・ 繊維強化セメント板「スレート・ボード」「ナチュラルレ」









3. 土木市場

- ・ ノザワライトバンキング (NLB)
- ・ アスロック遮音壁
- ・ トンネル内装用パネル






1-5. 3つの市場での社会ニーズと商品の特長

当社の外壁は、材料単体ではなく専用工法と組み合わせた“システム型”商品です。これにより、優れた性能を発揮し、様々な社会ニーズに対応しています。

アスロック


-  ○ **薄くても防耐火性能がある壁**
60mmの薄さで、防耐火認定1時間を取得
-  ○ **地震時の外壁の安全性を確保する**
東北地方太平洋沖地震(M9.0)にも耐える取付工法
-  ○ **暴風雨時の浸水を防ぐ**
過去最大級の台風にも水の侵入を防ぐ防水工法
(昭和40年台風23号「シャーリー」の69.8m/sを上回る水密性能)
-  ○ **猛烈な強風でも破損・脱落しない壁**
記録的な暴風にも破損・脱落を防ぐ取付工法
-  ○ **仕上げの多様性**
リブ模様・エンボス模様やタイル仕上げ等が可能
-  ○ **軽量で強度と耐久性を備えた壁**
中空形状、無筋のため、軽くて強い長寿命の壁


アルカス


-  ○ **超高層ビル用の高性能カーテンウォール**
超高層ビルに求められる耐風圧、耐熱、耐水、対候、耐震と低層ビルよりはるかに厳しい環境条件をクリア
-  ○ **超高層ビルの競合品と比べて軽量**
構造体(鉄骨)の低減が可能なためコストダウンに寄与
-  ○ **超高層ビルの競合品と比べて薄い**
壁の厚みが80mmと薄い為、同じ敷地面積でも床面積がアップ
-  ○ **工期短縮**
無足場工法による工期短縮
-  ○ **メンテナンスフリー**
シーリング材の打ち替え不要によるメンテナンスフリー

1-5. 3つの市場での社会ニーズと商品の特長

住宅用軽量外壁材


- 

○ **仕上げの多様性**
型付けによる多彩なデザインが可能
- 

○ **外壁材単体で防耐火性能がある壁**
外壁材単体(厚さ60mm)で防耐火認定1時間を取得
- 

○ **軽量で強度と耐久性を備えた壁**
中空形状、無筋のため、軽くて強い長寿命の壁


住宅用高遮音床材

- 

○ **上階の生活音が感じられない床**
衝撃音を遮断する高性能床
(遮音性能：重量床衝撃音 ※LH-50 軽量床衝撃音 ※LL-45)
※鉄筋コンクリート造建物並みの遮音性能


スレート・ボード

ナチュラルレ

- 


○ **室内デザイン選択肢の多様化**
内装にコンクリート打ちっぱなしの質感を再現可能

ナチュラルレ シェルインオイスター

- 

○ **環境配慮と意匠性を両立した資材**
廃棄される貝殻を原材料の一部に再利用し
海洋資源の有効活用と貝殻由来の意匠性を両立

トンネル内装用パネル

- 

○ **明るく整ったトンネル空間**
光を反射し明るさ向上、美しさ維持と汚れに強いパネル

1-6. 3つの市場で活躍する商品の基礎となる固有の技術

当社が培ってきた技術力を基盤として、社会ニーズに対応した商品を創出してきました。

1. 製造技術：

押出成形技術：押出成形板は当社が世界で初めて量産化に成功

- ・中空パネル一体成形
- ・多品種少量生産
- ・エンボス型付製造技術
- ・塗装など仕上げの多様性の実現

抄造技術：日本初のスレートメーカーとして製造技術を確立

- ・多品種少量生産
- ・オーダーメイド感覚で多様な顧客要求品質を実現

2. 建築工法技術：

工法技術：当社製品を建築物に取り付ける当社独自の技術

- ・標準耐震工法（東北地方太平洋沖地震(M9.0)にも耐える耐震性能）
- ・標準二次防水工法（ニューセフティ工法）
（国内最大記録となる昭和40年台風23号「シャーリー」（最大風速69.8m/s）を上回る水密性能）
- ・現場省力化工法（LS工法）（下地鋼材の減少、省力化工法と工場プレ加工で現場作用30%削減）

融合技術：製造技術と工法技術を含めた複数の技術を組み合わせた技術

- ・壁面一体化緑化パネル（敷地不要で緑化条例を満たす外壁）
- ・太陽光一体型パネル（敷地不要で太陽光発電設備の設置義務化条例を満たす外壁）
- ・ルールファスナー工法（多様な仕上材を自由に配置する乾式取付工法）

1-7. 固有の技術を生み出す創業来の遺伝子「いつも新しいことを」

「いつも新しいことを」追求して、当社固有技術を確立し社会に必要とされる商品を提供してきたことで129年存続してきました。

創業以来、当社の競合会社は、大企業の子会社が多く、資本力では敵いません。当社が競争に打ち勝ち、生き残るには、いつも新しいことを追求し、それを具現化することでした。すべての領域で差別化を図り、いつも先頭を走り続けることが当社の生き残る道です。



これまでの商品開発



- 1913年：日本初のスレート板国産化
- 1926年：厚型スレート板を開発
- 2010年：太陽光発電一体型外壁材を開発
- 2011年：ビルトインタイプの壁面緑化システムを開発



- 1970年：押出成形セメント板「アスロック」を量産化
- 1987年：押出成形セメント板1200mm巾品の量産化に成功
- 1999年：押出成形セメント板住宅用軽量外壁材を量産化



知的財産を839件取得



2-1. これからも「いつも新しいことを」追求していきます

これからも「いつも新しいこと」を追求する上で、大事なことは社会情勢を見極めることです。これからの社会情勢を見ていくと社会変化の5大要因とされる「AI・DXを中心とした技術革新の加速」「人口減少と労働力不足」「環境対応ニーズの高まり」「自然災害の激甚化」「インフラの老朽化」によって、社会は急速に変化しています。

また、政府が優先的に推し進めている「戦略17分野」に掲げられています。その中でも「防災・国土強靱化」は特に当社の事業展開に大きく関わっています。

AI・DXを中心とした技術革新の加速

AIやDXの進展によりデータ活用と業務自動化が急拡大し、企業に迅速な導入と継続的な更新が求められている。

人口減少と労働力不足

生産年齢人口の減少で労働力不足が深刻化し、人材活用と生産性向上の取り組みが一層求められている。

環境対応ニーズの高まり

脱炭素の潮流により、環境負荷低減と持続可能な経営、排出削減への対応が企業の前提となっている。

自然災害の激甚化

地震・暴風雨等自然災害の増加・甚大化で安全性要求が高まり、建材性能の向上と供給体制の強化が重要となっている。

社会インフラの老朽化

竣工から経年により老朽化したインフラの維持管理や更新の需要が拡大し、安全性確保に向けた対応が重要となっている。

戦略17分野

- | | |
|-------------------|-------------------|
| ① AI・半導体 | ⑩ 防災・国土強靱化 |
| ② 造船 | ⑪ 創薬・先端医療 |
| ③ 量子 | ⑫ フュージョンエネルギー |
| ④ 合成生物学・バイオ | ⑬ マテリアル（重要鉱物・部素材） |
| ⑤ 航空・宇宙 | ⑭ 港湾ロジスティクス |
| ⑥ デジタル・サイバーセキュリティ | ⑮ 防衛産業 |
| ⑦ コンテンツ | ⑯ 情報通信 |
| ⑧ フードテック | ⑰ 海洋 |
| ⑨ 資源・エネルギー安全保障・GX | |

出典：内閣官房「日本成長戦略本部／日本成長戦略会議」掲載資料を基に作成

2-1. これからも「いつも新しいことを」追求していきます

当社はこれまで、コーポレートメッセージである「やすらぎと安心の創造」の3項目の実現を目指してまいりました。これらの取り組みは、社会変化の5大要因および政府が掲げる「戦略17分野」の方向性と合致しており、今後も継続的に強化してまいります。さらに、業界・業種を問わず共通の課題である「人手不足」を新たな課題として加え、この4項目を当社の新たな「やすらぎと安心の創造」ノザワの使命（Nozawa's Mission）と位置づけ、取り組みを進めます。

ノザワの使命を果たす（Fulfilling Nozawa's Mission）ことで、資本コストや株価を意識した経営を実現するとともに、継続的な企業価値の向上を図ってまいります。

ノザワの使命（Nozawa's Mission）

1. 災害から守る
 2. 快適な住環境の提供
 3. 環境保全
- +
4. 人手不足解消

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績等は、今後さまざまな要因によって大きく異なる可能性があります。

また、本資料は情報の提供のみを目的としており、取引の勧誘を目的としておりません。